

## 話題 ひと暮らし

## 患者の立場で書きました

大分県の乳がん患者の会「オードリーの会」が、患者の立場文は、会を物心両面で援助している放送作家、じゃないよ」を出版した。研究者による専門書やテキストは永六輔さんが「がんは病が多いが、患者たちが自ら編集した本は珍しい。代表の同県豊後高田市、中学校看護教諭、山田泉さん(45)は「自分たちが乳がんと分かった時『こういう本があったらいいな』と思った本を作った」と話す。

【船木敬太、写真も】

オードリーの会は、会員70人が3カ月に1回の割合で集まり、食事やおしゃべりを楽しみながら乳がんの悩みや不安を打ち明け合っている。会の終わりにには必ず、坂本九の名曲「見上げてごらん夜の星を」を歌うという。手をつなごう僕と／追いかけよう夢を／二人なら苦しくなんかないさ。本のタイトルには「乳がんは発症から再発までの期間が長い。不安を抱えながら病気と長く付き合う時、豊かな人生を生きるために一人で悩まないで」という願いを込めた。

A5判186頁、1890円、問い合わせは木星舎(092・8333・7140)

## 大分の乳がんの会 本出版

最新の治療や再発防止 策、緩和ケアなど医師の講演録のほか、臨床心理士によるストレスの対処法など、乳がんと付き合う上で必要な知識を平易な言葉で紹介。また昨年11月に亡くなった会員の植田妙子さんが、自身の

「再発後を明るく生きる」も収録した。昨年、同タイトルの講演集を600部自主出版し完売したため、大幅に加筆して福岡市の出版社「木星舎」から出版した。



「患者にもその家族にも読んでほしい」と話す

山田代表 大分県豊後高田市で19日

## 最新治療など平易な言葉で紹介